



イラク：国会が内相、国防相人事を承認

2014年10月18日、イラクの国会はムハンマド・サーリム・ガッバーンを内相、ハーリド・ウバイディーを国防相に任命する人事を承認した。これで、アバーディー内閣の発足以来1カ月以上空席となっていた内務・国防の両閣僚が選任された。また、同日、クルド勢力から選任される閣僚と役職も決定し、人事が承認された後に宣誓式を行った。

役職	氏名	特記事項
内相	ムハンマド・サーリム・ガッバーン	シーア派。所属：バドル会派 1977年から反体制運動に参加、1981年にイランへ出国。
国防相	ハーリド・ウバイディー	スンナ派。出身地：モスル。
副首相	ルーズ・ヌーリー・シャーウィース	クルド人。所属：KDP
財務相	ホシュヤール・ジーバーリー	クルド人。所属：KDP
文化相	ファルヤード・ラーウンドウージー	クルド人
移民相	ダルバーズ・ムハンマド（ジャーシム・ムハンマド）	クルド人
女性担当相	バヤーン・ヌーリー	女性。クルド人
国務相	サルマーン・アブドッラー	クルド人

評価

イラクでは、内務、国防などの治安閣僚の座が2010年末にマーリキー政権下で組閣した際から正式に国会で承認されていなかったため、内閣に内相、国防相が揃うのはそれ以来である。しかし、今般の人事にしてもこれまでイラクの政局で繰り広げられてきた、各会派による役職や権益の奪い合いの結果に過ぎないとも言える。また、クルド勢力から任用する閣僚についても、ここでようやく人員と役職が決定するなど、アバーディー政権が円滑に発足したわけではない。この点、アバーディー内閣にも、マーリキー政権をはじめとするフセイン政権放逐後のイラクの歴代の政権と同様、連立政権を構成する様々な院内会派の権益争いの結果、政府の意思決定が不可能になる可能性が残っているといえる。

(高岡上席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799